人の活動が地球環境の許容範囲を超えてしまったことが言われて久しく、また、2011年の震災と原発事故は日本のように「発展」した国の脆弱性を白日の下にさらけ出しました。しかし、従来型の経済優先の発展が人びとを豊かにするという幻想は未だに強く、日本社会もまたその道に戻っていこうとしているように見えます。

セミナー
開発現場から見たメコンの20年
―変わったもの、変わらないもの

日時 2013年**6**月**2**日（日）
13:30-15:30

プログラム（予定）
13:15 開場
13:30-13:40 はじめに
13:40-14:10 ビルマからの報告
14:10-14:40 カンボジアからの報告
14:40-15:05 映像「トランジション・ラオス 森の変遷と暮らし」上映
15:05-15:30 まとめ・フロアとの意見交換
（15:40-15:45 休憩
15:45-16:45 メコン・ウォッチ総会）
※総会はどなたでもご参加いただけます。

要申込
ウェブサイトの登録フォーム
https://ssl.form-mailer.jp/fms/9a74a09b245393
もしくはメールにてお申し込みください。
宛先 event@mekongwatch.org

定員 40名
資料代 500円（会員は無料）

主催（お問合せ先）
特定非営利活動法人メコン・ウォッチ
Tel: 03-3832-5034　Fax: 03-3832-5039
Email: info@mekongwatch.org

アジア最後のフロンティアと呼ばれるビルマ（ミャンマー）。投資先として注目される同国は、今、援助・開発ラッシュに沸いています。日本も官民を挙げて同国の開発に関わり始めましたが、現地の人びとは、立退きや生業を失うなど厳しい状況に直面しています。

また、カンボジアやラオスでは、戦乱から20年、ようやく生活を取り戻し始めたところに「開発」の名の元で新たな土地や資源の収奪が巻き起こっています。しかし、私たちのところには、困難な状況でも日々の暮らしを良くしようと努力を重ねる人びとの声が届きます。

今回のセミナーでは、メコン・ウォッチが活動を通して知った現地の暮らしの「今」をお伝えすると共に、これからの日本が各国の人びととどのように付き合っていくのかを、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

会場 岩波セミナールーム
東京都千代田区神田神保町2-3-1 岩波ブックセンター3F
(地下鉄神保町駅A6出口から徒歩1分)